

JCCP NEWS



CONTENTS

認定 NPO 法人 日本紛争予防センター
Japan Center for Conflict Prevention
2010 年 9 月 17 日発行 / No.17

p.2-3... **特集 ソマリア**

新たな治安改善モデルへの取り組み / 現地調査データが語るもの

p.4-5... ケニア：平和は自らの手で / スーダン：子どもや若者に生きるための力を

p.6-7 ... マケドニア：地域に広がる波及効果 / 現在活動中のプロジェクト一覧 / 新任スタッフからのご挨拶 / JCCP カレンダー

p.8 ... マンスリーサポーター募集開始！ / ご支援のお願い



道ばたではにかむ少女 / 南部スーダン・ジュバ

Copyright©2010 Yasuyoshi Chiba



特集

Somalia

ソマリア / 新たな治安改善モデルへの取り組み

瀬谷 ルミ子 / JCCP 事務局長

プロジェクト名：
コミュニティレベルの治安改善事業
(Community Safety Project in Somalia)

※このプロジェクトは、国連開発計画（UNDP）が行う新たな治安改善への取り組みで、JCCP は現地 NGO に対する治安調査訓練と治安分析を行っています。

ファヒアの記憶とともに

7 月末のある日、東京にいた私のもとへ、ソマリアの首都モガディシュから一通のメールが届いた。あるソマリ人女性が、銃弾を受け、命を落とした。私が 5 月にソマリアで訓練した女性だった。事件が起きたのは、彼女がその日の調査の仕事を終えて帰宅途中。乗っていたバスが民兵に襲われ、運転手を脅すために発砲された銃弾が、乗車していた彼女に当たってしまったのだ。

「これがモガディシュでの日常なんだ。他の国で、交通事故に遭うのと同じように。」
彼女の上司である現地 NGO の代表は言った。ソマリアの女性というと、イスラムの戒律で自由を与えられていないとか、教育を受ける権利もないという印象が強いかもしれない。しかし、イスラムの教えを守りつつ、自由に働いたり学んだりしている女性も都市部では多く存在する。首都モガディシュから研修に参加した女性たちは、最初こそ恥ずかしそうにしながらも、そのうち男性参加者を相手に歯に衣着せない言葉でやり込めたり、研修で行うテストの結果を見て誇らしげにしたりと、とても生き生きとしていた。

「モガディシュでは、大学を卒業しても、治安が悪くて仕事がないから自分の能力を生かせる仕事ができないし、職歴を積むこともできない。だから、今回のプロジェクトで、

自分も成長できて、国の安全に貢献する機会が得られて、本当に嬉しく、誇りに思う」
2 週間近くの研修の間、何度もそんな声を耳にした。

彼女の亡きあと、同僚でもある他の調査員たちによって、予定されていた地域での調査は完了した。当初から、調査員たちの安全と意見を優先して、戦闘中の地域を避けて今回の調査を行っていた。しかし、安全だと言われる地域でも、ソマリアの常識でいう「事故」が、日々起こっている。そして、そこで命を落とす個人や、家族や友人たちの想いは、本人たちにとっては慣れることができない非日常である。

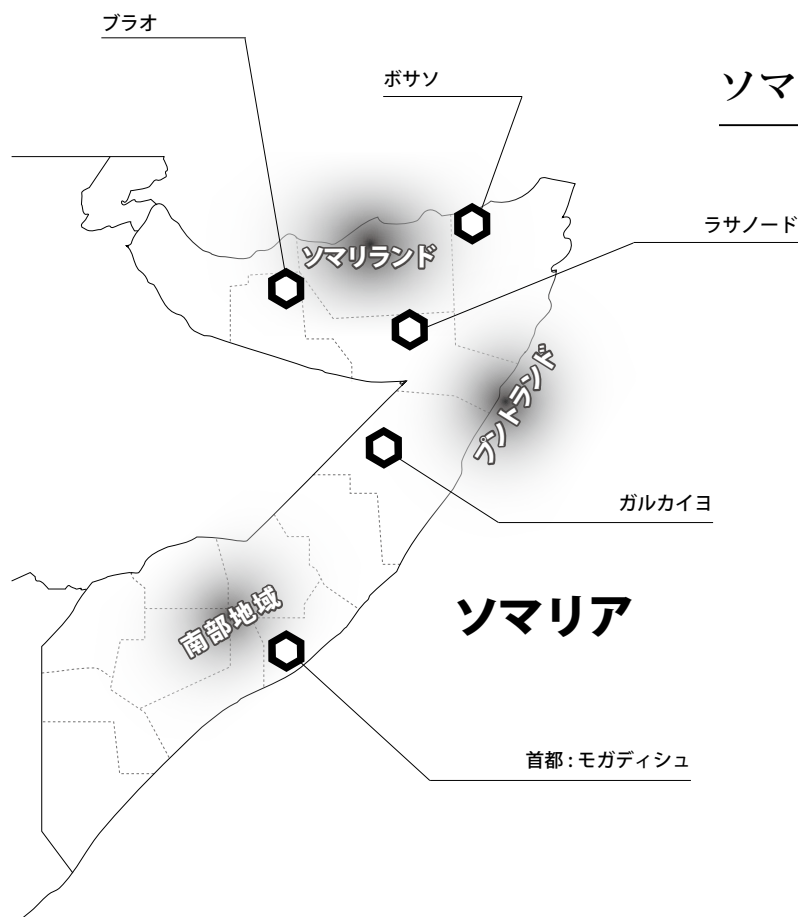
ソマリアでは、このような事件や事故を避けるための手段も限られている。一方、そこに住む人々の多くは、その現状を誰かが、何かのきっかけが変えてくれないかと日々感じている。彼女のように、自らそれを行う人間になろうと決め、行動する人々もいることを目のあたりにする。彼女たちが望むのであれば、そして、そのために自分たちができることがほんの少しでもあるのであれば、「安全」という、生きていくための手段を彼女たちが少しでも多く得られるように、力を尽くしたいと思う。

ソマリア コミュニティレベルの 治安改善事業とは

JCCP はソマリアで新たな治安改善モデルの構築を目指した活動＝ソマリア コミュニティ・セーフティ・プロジェクトに取り組んでいます。これは地域ごとに治安の状況を調査分析し、それぞれに異なる紛争の原因を明らかにすると同時に、コミュニティの持つ伝統的な問題解決の手法を取り入れながら治安の改善を実現しようという、世界的にも新たな取り組みです。コミュニティの力に焦点を当てるこの取り組みは、ソマリアのように紛争が広域化・長期化して、現地政府が治安を守れない状態にある地域での新たな解決策として有効なものと JCCP では考えています。

JCCP が調査手法の開発と現地 NGO の訓練を行い、ソマリ人調査員である若者たちが、各地で住民や被害者を対象に聞き取り調査を行ないます。調査員によって集められた情報は、JCCP の専門家スタッフにより分析された後、国連機関や警察など地域の治安担当者や NGO、住民たちと共有され、治安改善プロジェクト立案のために活用されています。また、このシステムは、治安がどのように、どの程度改善したかを客観的に評価することにも成果を発揮します。

ソマリアの現地情勢



現在のソマリアは、実質的に北西部のソマリランド、東部のプントランド、そして南部地域の3つの地域に分けられます。中央政府は首都モガディシュでアフリカ連合（AU）の平和維持軍の支援を受けていますが、反政府軍の侵攻により、首都の統治を行うのも困難な状況です。モガディシュやその周辺、また隣国との国境付近では現在も散発的な戦闘が報告されており、未だに混迷状態にあります。当プロジェクトでは、そうした状況の下で、これまでに以下の地域で現地 NGO への治安状況調査の訓練と治安状況分析を実施しました。

調査を実施した地域／2010年6月時点

- ・ソマリランド：ブラオ、ラサノード
- ・プントランド：ボサソ、ガルカイヨ
- ・南部地域：モガディシュ

ソマリア コミュニティレベルの治安改善プロジェクト ー現地調査データが語るもの

西野 裕子／JCCP 在ケニア代表

治安状況調査データの利用法についての研修会



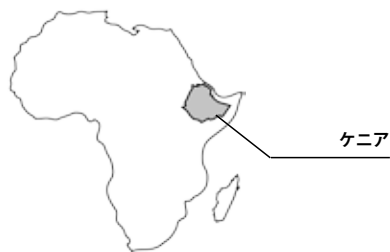
ソマリアの治安改善プロジェクトでは、コミュニティの治安や安全についての調査と分析を行っています。その中で興味深い結果が出てきました。ソマリア中央部プントランドにあるガルカイヨ地区で行われた聞き取り調査によると、一般に現地の人々の警察に対する信頼度は、警察官の汚職や住民に対する人権侵害などがひどいために、非常に低い状態である一方で、事件や事故に遭って警察の助けを求めた経験を持つ人々の中では、警察への信頼度が高いという結果が見られました。このように地元警察への信頼度に違いが生じるのはなぜか、その理由についてより詳しい分析を行うことで、住民と警察が協力して治安改善に取り組むための手がかりが得られます。これらの調査結果をまとめていくことで、警察や司法の能力強化を含めた、地元に根ざした治安改善の効果的な手法が明確になると期待されています。

Kenya

ケニア

高井 史代

JCCP ケニア事務所 プログラム・マネージャー



平和は自らの手で— 平和構築の担い手を育てる 3つの取り組み

プロジェクト名：

暴動後の国内避難民及び
スラムにおける自助団体の
能力強化を通じた共生プロジェクト

プロジェクトの概要：

2007 年末の大統領選挙をきっかけに起きた暴動によって、人々の間で争いが生じている。JCCP は、ナイロビ市のマザレスラムとリフトバレー州において、異なる民族間や集団間の共存を実現するためのプロジェクトを実施している。

このプロジェクトは、JCCP の会員や寄付者の皆様からのご支援と独立行政法人 国際協力機構（JICA）、財団法人 日本国際協力財団（JICF）からのご支援により実施しています。

ケニアで取り組んでいる「民族共生のためのプロジェクト」は、紛争後の地域で生きる人々の能力を引き出し、自らの力で平和を維持できるように支援するものです。プロジェクトの実施にあたっては、地域の中のいくつかの異なる層の人々を支援することで、コミュニティ全体の能力がバランスよく高まるように注意を払っています。そのため、このプロジェクトでは、対象の異なる3つの取り組みを実施しています。行政職員、自助団体（Self Help Group）、ボランティアスタッフといった役割の異なる人々への働きかけがそれぞれに平和構築への流れを生み出しています。今後はこれらの活動が折り重なって、より活力に満ちて安定した社会が形作られることが期待されています。

1. 行政職員の能力向上支援

異なる民族や集団の間で起きた争いやトラブル、または暴力事件などに関して、各地の行政職員がどのような対処を行っているか調査を実施しました。その結果、このようなトラブルを予期しても、具体的にどう対処してよいのか分からなくて困っていることが明らかになりました。そこで、このプロジェクトでは、行政職員に対して、トラブルの予兆を発見したらどのようなことをすべきか、対話の進め方や公平な仲裁の方

法、双方が納得できる解決策の導き方などについての具体的な対処法を学んでももらいました。今後は、研修に参加した行政職員が各地で実践に取り組むことになります。

2. 自助団体（Self Help Group）の 能力向上支援

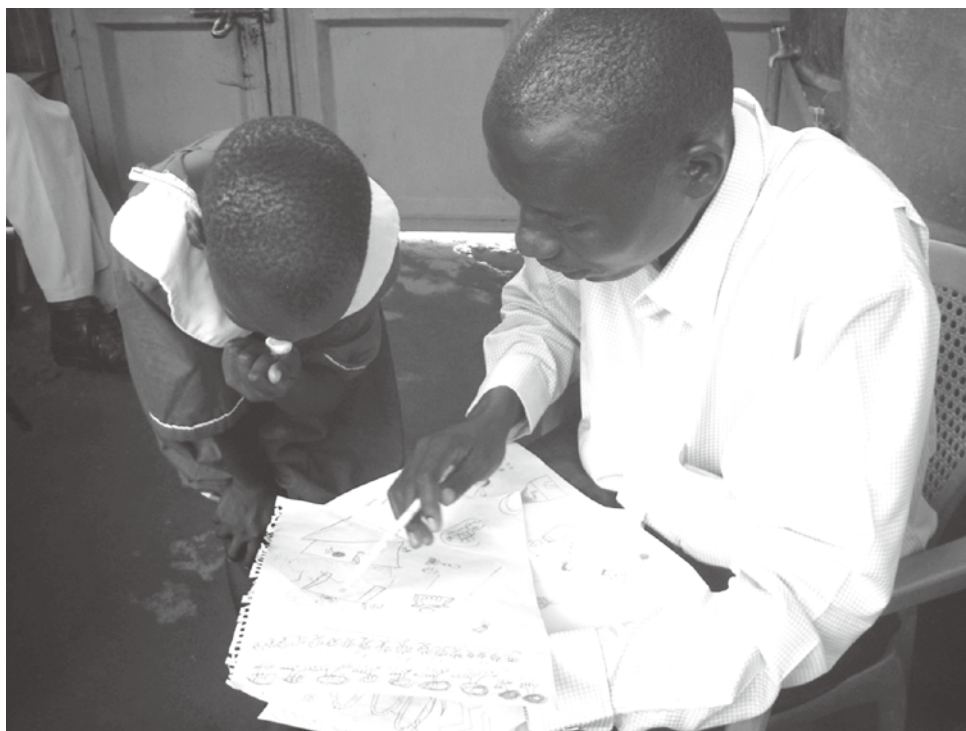
各地のコミュニティで活動する自助団体は、グループでの小規模ビジネスなどの活動を通して経済的に自立することを目的に、グループの運営方法、経理、プロジェクトの進め方などについて研修を通して学んでいます。今後は、研修に参加した5団体と共に養鶏などの小規模のコミュニティ事業を実際に立ち上げて、研修で学んだことを実践しながら、自助団体の運営能力を向上させていきます。

3. ボランティアスタッフに対する 能力向上支援

JCCP は、2009 年にマザレスラムで大人向けの心理ケアプロジェクトを実施しました。暴動により心の傷を負った人々に対して心理ケアを行うため、現地で募ったボランティアスタッフに、専門的な研修を受けてもらった上でカウンセリングを実施しました。今年は改めて子どもを対象としたカウンセリング手法を、以前のスタッフたちに専門機関で身につけてもらい、18 歳以下の子どもたちに心のケアを行う支援を実施しました。



自助団体向けの組織管理と平和構築のための研修の様子（講師は JCCP スタッフのアリス・ンガリ）



子どもの権利をテーマに制作した絵画を見ながら会話を交わす子どもと JCCP スタッフ（デービッド・マニョック）

プロジェクト名：

南部スーダンにおける子どもと若者へのライフスキル向上支援事業

プロジェクトの概要：

南部スーダンの首都ジュバにおいて、路上生活を送ったり、長期に及んだ紛争の影響や貧困が原因で学校に通えなかった子どもや若者を対象に、職業訓練と防犯や生活改善のための啓発活動を行っている。

このプロジェクトは、JCCP の会員や寄付者の皆様からのご支援と特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォームからのご支援により実施しています。

Sudan

スーダン

中西 美絵

JCCP 在スーダン代表

子どもや若者に 生きるための力を



南部スーダンの首都ジュバの職業訓練プログラムでは、訓練の対象となる 45 名の選定が終わり、6 月から 10 週間にわたってハウスキーピング・コースと給仕・調理補助コースの 2 種類の訓練が実施されています。訓練には、隣国ウガンダの武装勢力に両親を殺害された若者や、放牧の手伝いで学校に通えなかった遊牧民出身の若者も参加しています。訓練生の一人、Marko（18 歳・男子）は、幼いころから家の仕事を手伝い家畜を放牧していたため、学校に通うことができませんでした。学校で学ぶことを夢見てジュバに出てきましたが、身寄りもなく路上生活を送っていました。職業訓練プログラムが始まった当初は、緊張や不安からか、表情も硬かった彼は、同じコースに友達もできて相手の目を見て笑顔で話すようになりました。今では自分に自信がついたようで、学ぶことにも喜びを感じている様子がうかがえます。

JCCP の啓発活動で対象としているストリー

トチルドレン（路上生活をする子どもたち）の多くは、ジュバのある中央エクアトリア州と隣接する東エクアトリア州から教育や雇用の機会を求めて首都であるジュバにやってきたものの、希望がかなわず路上生活をするようになった子どもたちです。空腹や夜の寒さなどをまぎらわすため、または周りの子どもたちからの影響によって、接着剤の吸飲（シンナーと似た作用がある）などの薬物の使用や、アルコールへの依存が深刻な問題となっています。盗みなどの犯罪に手を染める子どもたちもいます。この状況は、路上生活の期間が長引けば長引くほど、深刻になっていきます。JCCP は、そんなストリートチルドレンのリハビリテーションを目的に、子どもたちによる小演劇や絵画活動を通して、薬物使用の危険性や犯罪の予防について伝えています。また、紛争の影響などで混乱が続くジュバでは、性暴力の被害にあう少女が増えています。すきまだらけの掘立小屋に住む低所

得者層の子どもたちや、親の保護を受けられない子どもたちは、特に被害にあう確率が高くなります。JCCP は、既に被害にあってしまった少女やそのリスクを負っている少女を対象に性犯罪や性暴力の予防を目的とした啓発活動や絵画制作を通じたカウンセリングを行っています。

その他、子どもの権利や児童労働をテーマにした啓発活動も行っています。初めに、生きる権利、教育を受ける権利、虐待からの保護など、子どもの持つ権利について説明した後、それぞれ「自分が親にやってもらいたいこと」、「自分が親にやってあげたいこと」のテーマで絵画制作を行いました。子どもたちは、雨や風をしのげる丈夫な家や、学校、病院などの絵や、水くみや料理、洗濯など、家事の手伝いをしている様子を描きました。

Macedonia

マケドニア

上田 貴子

JCCP バルカン事務所 プロジェクト・コーディネーター

異なる民族間の融和事業

地域に広がる波及効果

—現地コーディネーターへのインタビューより

スツルガでの共同清掃とワークショップのプロジェクトが始まってから半年が過ぎました。異なる民族の小学生の交流と相互理解を支援するこのプロジェクトは、主役である子どもたちはもちろんのこと、プロジェクトに係わる多くの大人たちにも意識の変化が生まれています。その一端を示すものとして、プロジェクトに現地コーディネーターとして参加した小学校の先生たちのコメントをいくつか紹介します。



「私たち（異なる民族からなる）コーディネーターたちはプロジェクトを進める中で、多くのコミュニケーションを取ってきた。互いに認め合い、信頼関係やチーム意識が強くなっているのを感じています。」

（小学校の教師 / コーディネーター）

「プロジェクトに参加した他民族の児童が、『また参加する時は、言葉が違ってても、あなたのグループにまた来たい。』と言ってくれた。子どもたちがエネルギーを与えてくれて達成感を感じています。」

（小学校の教師 / コーディネーター）

「住民たちは、JCCP と他校の児童が村にやって来た当初は、何をやっているかわからないようでした。でも、プロジェクトのことが子どもたちから家族へ、そして地域住民へと伝わるにつれ、自分たちのコミュニティに他の民族の子どもが訪れてくれる事を嬉しく思うようになりました。」

（小学校長）



現地でのミーティング風景（中央は JCCP 職員の上田）

こうしたインタビューからもわかるように、プロジェクトのスタート時と比べ、大人たちの間でも意識の変化が確実に起きていることが実感されます。教師たちの間では、会合が自主的に行われ、その中から、プロジェクトを他の小学校にも広めていこうとの意見や、各言語の挨拶や簡単な単語を載せたハンドブック（挨拶ペーパー）を作って子どもたちに配布しようといったアイデアが出ています。こうした交流は、プロジェクト終了後も貴重なネットワークとして意味を持つものです。

JCCP のプロジェクト一覧 (2010 年 4 ～ 6 月の間の取り組み)

事業名：現地 NGO と市民社会の能力育成・ネットワーク整備による紛争予防事業
事業地：ケニア
〔東部アフリカ 8 カ国：ウガンダ・ケニア・コンゴ民主共和国・スーダン・ソマリア・中央アフリカ共和国・ブルンジ・ルワンダ〕に対する支援〕
期 間：2008 年 6 月 11 日～2010 年 6 月 12 日
助 成：ユネスコ (UNESCO)

事業名：コミュニティレベルの治安改善事業
事業地：ソマリア
期 間：2009 年 11 月 18 日～2010 年 9 月 30 日
助 成：国連開発計画 (UNDP)

〔新規助成 (第 2 期)〕
事業名：南部スーダンにおける子どもと若者へのライフスキル向上支援事業
事業地：スーダン
期 間：2009 年 12 月 22 日～2010 年 4 月 30 日 (第 1 期)
2010 年 5 月 21 日～2010 年 11 月 20 日 (第 2 期)
助 成：ジャパン・プラットフォーム (JPF)

事業名：コンボントム州・小学校図書室設置支援事業
事業地：カンボジア
期 間：2010 年 1 月 1 日～4 月 30 日
助 成：茨木東ロータリークラブ (大阪府茨木市)

事業名：異なる民族間の交流促進
／スツルガ地区の小学生による共同清掃とワークショップ
事業地：マケドニア
期 間：2010 年 1 月 11 日～2010 年 9 月 10 日
助 成：外務省・日本 NGO 連携無償資金協力

事業名：国際平和支援研修センター (IPSTC) への平和支援研修及び組織強化事業
事業地：ケニア
期 間：2010 年 2 月～2010 年 12 月
助 成：国連開発計画 (UNDP)

事業名：選挙暴動後の IDP 及びスラムコミュニティにおける CBO 能力強化を通じた共生プロジェクト
事業地：ケニア
期 間：2010 年 2 月 20 日～2011 年 8 月 31 日
助 成：独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

〔新規助成〕
事業名：マザレ・スラム地区における暴動被害者の能力開発を通じた生活復興支援
事業地：ケニア
期 間：2010 年 4 月 1 日～2010 年 12 月 31 日
助 成：日本国際協力財団 (JICF)

新任スタッフからのご挨拶

〔海外事業担当〕 安富 淳

今年 5 月に海外事業担当として JCCP に着任しました。これまで主にヨーロッパに長く住んでいたため、日本での就業は今夏でやっと 1 年目を迎えたところですが、ですので、色々なことが初めてで学ぶことがたくさんありますが、JCCP 本部は明るく優しい人ばかりなので毎日楽しく勉強しながら仕事しています。ここでは、JCCP の海外事務所やドナー(活動資金を提供して下さる団体)と連絡を取り合いながら事業を進めていくのが私の役目です。趣味は沢山ありますが、最近力を入れているのは文房具集めです。ボールペン(愛用はロットリング社)や手帳(何ととってもモレスキン社)などにこだわるのでお小遣いがあったという間になくなってしまいます。

略歴

1994 年 上智大学比較文化学部卒業
1995 年 英国ブラッドフォード大学平和学部修士課程修了
2006 年 ベルギー・ルーヴェン大学社会科学部博士課程修了
大使館勤務、平和構築等の分野で国内外の国際 NGO 及び研究所で勤務。

〔経理担当〕 住吉 怜子

初めまして。6 月より経理担当として勤務しています住吉です。昨年、JCCP の瀬谷事務局長の出演したテレビ番組を見て一目惚れしたのがきっかけで、面接を受けたのが今年の 4 月。そして、7 月現在この文章を書いています。そんな展開に自分でもびっくりしています。私はこの業界は初めてなので、色々戸惑いや不安を覚えることもありますが、今まで身につけてきたスキルを生かして、様々なことに挑戦していきたいと考えています。

皆さまのご声援をお待ちしています！

好きな食べ物はバナナ。

バナナがあれば、どんな国でも行けるハズ。

JCCP カレンダー〔講演会、セミナー&メディア掲載、出演〕

4 月 14 日 (水)
愛知教育大学附属岡崎中学校のみなさん、
福島県立清水中学校のみなさんが訪問されました。
(スタディーツアー)

5 月 19 日 (水)
横浜雙葉高等学校の生徒の皆さんに向け大上事務局次長が講演しました。
演題：世界の子どもたちの現状を知るーアフリカの子ども兵士
主催：かながわ国際交流財団 (高校国際支援事業として)

5 月 27 日 (木)
愛知県常滑市立鬼崎中学校のみなさんが訪問されました。
(スタディーツアー)

6 月 16 日 (水)
TBS ニュースバード (CS 放送)「ニュースの視点」に瀬谷事務局長が出演、
ソマリア情勢を中心にスタジオでインタビューを受けました。

6 月 12 日 (土) - 13 日 (日)
群馬県立前橋女子高等学校文化祭「光慧祭」にて
3 年 4 組のみなさんが JCCP の活動を
紹介してくださいました。

6 月 24 日 (木)
東京都内の私立中学・高校の教職員の方々に向け、堂之協理事長が講演
しました。
演題：核兵器はなくせるのか～核軍縮の現状と今後～
主催：一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

お知らせ

- JCCP の堂之協理事長が NHK 総合テレビに登場します。
NHK の報道プロジェクト「あすの日本」の取材班の取材を受けました。
非核三原則をテーマとした「NHK スペシャル」で放送されます。
放送予定：10 月 3 日 (日) 21 時 00 分～21 時 49 分 (放送日時は変更する場合があります)
- JCCP の瀬谷事務局長が NHK 総合テレビに登場します。
昨年 4 月にも取り上げられた NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」の特別番組の取材を受けました。
瀬谷を含めた数名のプロフェッショナルたちのその後の挑戦の様子を伝える番組として放送されます。
放送予定：10 月 16 日 (土) 20 時 00 分～20 時 43 分 (放送日時は変更する場合があります)

マンスリーサポーター 募集開始！

月々千円からのご寄付で、紛争地の人々を支援できます。
JCCP のホームページからオンラインでお申し込みください。
＊クレジットカードでの手続きとなります。

JCCP は国税庁より認定 NPO 法人に認定されました。
これにより、JCCP への寄付は所得控除の対象となります。
(2010 年 7 月 16 日以降の寄付が対象となります)

会員案内

JCCP は、紛争予防・平和構築活動の重要性に賛同し、JCCP の活動に参加いただける会員を随時募集しております。

入会方法

入会申込書に必要事項をご記入の上、郵送、FAX、または E-mail にてお申し込みください。入会申込書は JCCP の HP (トップページ→支援する→会員になる) からダウンロードできます。なお、賛助会員、特別会員については当センターまでお問い合わせください。

正会員

支持会員：年に一口 2 万円以上を納める個人または団体
賛助会員：年に一口 30 万円以上を納める個人または団体
特別会員：詳細は当センターまでお問い合わせください

一般会員

一般会員：年に一口 1 万円以上を納める個人または団体
サポーター：年に一口 5 千円以上を納める個人
学生サポーター：年に一口 3 千円以上を納める個人

会員特典

JCCP の主催する会議、シンポジウム、公開講座、講演会などについての情報を提供し、優先的に参加いただけます。また、正会員(賛助会員・支持会員)は総会の構成員として JCCP 総会に参加いただけます。

寄付のお願い

JCCP は、海外事業・国内事業を支援していただける方からの寄付金を随時受け付けております。

郵便振替で寄付をする

郵便振替口座：00100-8-425569

加入者名：特定非営利活動法人 日本紛争予防センター
トクヒ)ニホンフンソウヨボウセンター

銀行口座から寄付をする

三菱東京 UFJ 銀行：普 1111380

名義人：特定非営利活動法人 日本紛争予防センター
トクヒ)ニホンフンソウヨボウセンター

(銀行からのお振込の場合、JCCP にはカタカナ表記のお名前のみ通知されますので、領収書が必要な方は、お手数ですが JCCP までご連絡ください)

オンラインで寄付をする

JCCP の HP (<http://www.gr.jp>) のトップページから、「支援する」のページを選択していただき、オンラインで募金いただけます。

書き損じハガキ

JCCP では、年賀状や暑中見舞いなどの書き損じハガキを、切手や現金に交換し、現地の支援に役立てています。

郵送先

〒112-0014

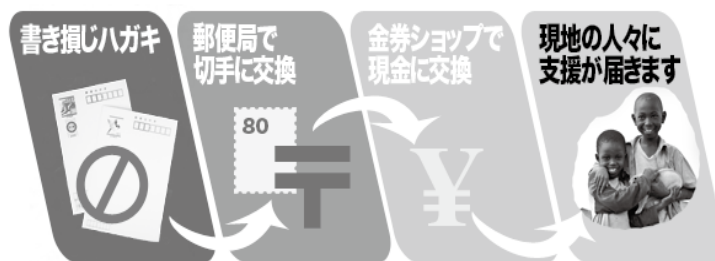
東京都文京区関口 1-35-20 藤田ビル 3F
日本紛争予防センター 書き損じハガキ係

例えば...

ハガキ 15 枚(約 500 円)で、ケニアの暴動でトラウマを負った子どもや女性一人が心のケアを 1 回受けることができます。

ハガキ 30 枚(約 1000 円)なら、紛争で親を亡くしたスーダンの子ども一人が、犯罪や暴力に巻き込まれないように守ることができます。

※活動のご報告をさせていただきますので、差し支えなければお名前とご連絡先を添えてお送りください。



JCCP の活動は会員の皆様、ご寄付いただいている皆様、助成団体の皆様のご理解とご支援によって支えられています。

皆様からお預かりした資金は紛争地の人々のために大切に活用させていただきます。今後とも JCCP へのご支援をよろしくおねがい申し上げます。

【寄付御礼】7 月 30 日 ユイット株式会社様よりご寄付をいただきました。貴重なご支援、ありがとうございました。

認定 NPO 法人
日本紛争予防センター

JCCP



Japan Center for Conflict Prevention
Established 1999 / NPO registered 2002

会長	明石 康	元国連事務次長
顧問	近衛 忠輝	日本赤十字社社長
	高村 正彦	元外務大臣
理事長	堂之脇 光朗	外務省元大使
理事	伊勢崎 賢治	東京外国語大学大学院教授
	入山 映	サイバー大学客員教授
	小川 和久	危機管理総合研究所所長
	折田 正樹	中央大学教授
	柴田 秀孝	(株)エムアンドアール 顧問
	塚本 俊也	青山学院大学教授
	目加田 説子	中央大学教授
	植村 高雄	(特活) CULL カリタス カウンセリング学会会長

住所	〒112-0014 東京都文京区関口 1-35-20 藤田ビル 3F
電話	03-5155-2142
FAX	03-5155-2143
E-mail	contact@jccp.gr.jp
URL	http://www.jccp.gr.jp
発行日	2010 年 9 月 17 日
発行人	堂之脇 光朗
編集人	瀬谷 ルミ子
Volume	Volume 6, Issue 2
Copyright	Copyright © 2010 Japan Center for Conflict Prevention